

事務事業実績測定調査

事務事業名称	塵芥収集業務(家庭ごみ業務第1課)											
測定年度	2021(R3)年度				部	環境部			課	家庭ごみ業務第1課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針		R2	R3		R4				
総合計画体系	基本目標		5.自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち									
	施策目標		25.ごみを減らし、資源の循環が進むまち									
	実行計画名											

1. 事務事業の概要

種類	市民サービス	特性	非選択的の事業		区分	非選択的の事務事業	
事業期間	不明		年度	~		年度まで	
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律						
関係補助金名称						サンセット	
関係附属機関名称							

事業対象	メインターゲット	枚方市民	
	サブターゲット		
	ターゲットが抱える課題	市民サービスを低下することなく、効果的・効率的な収集体制を確立すること。	
	ターゲットが抱える課題		

めざす姿、あるべき姿(課題が解決した状態)
 災害発生時や緊急時等において、市民生活への影響を最小限に抑え、市民サービスの低下がなく迅速に対応できるようセーフティネットを踏まえた効率的な収集体制を確立する。
 高齢や要介護等を理由に屋内のごみを出すことが困難な世帯に対しごみ出し支援をおこない、市民サービスの拡充を図る。

事業概要

- 「資源ごみ(ペットボトル・プラスチック製容器包装)」は市域を5ブロックに分割し、それぞれのブロックごとに週1回の指定曜日を定めて収集する。(定曜日収集方式)
- 「資源ごみ(空き缶、びん・ガラス類)」は市域を10ブロックに分割し、それぞれのブロックごとに月2回の指定曜日を定めて収集する。(定曜日収集方式)
- 「紙類(新聞紙、段ボール、雑誌・雑がみ)」は市域を10ブロックに分割し、それぞれのブロックごとに月2回の指定曜日を定めて収集する。(定曜日収集方式)
- 「臨時ごみ」は電話申し込みにより収集する。申し込み回数や収集回数の制限を設けない。(戸別収集方式)
- 「資源ごみ(使用済小型家電)」は市内の公共場所や協力店舗に専用の回収ボックスを設置し、週1回収集する。(拠点回収方式)
- 「資源ごみ(水銀使用廃製品)」は市内の公共場所や協力店舗に専用の回収ボックスを設置し、週1回収集する。(拠点回収方式)
- 「ふれあいサポート収集」は、一人暮らしでホームヘルプサービスを利用し、かつ要介護1以上または障害等の要件に該当する世帯に対し、日常のごみ(一般ごみ・資源ごみなど)を市職員が玄関先まで収集に行く。(当該サービス利用者に限り、屋内の大型ごみの持出し収集をする。)
- 「大型ごみ持出しサポート収集」は、ふれあいサポート収集を補充する事業として、世帯構成(同居)するすべての者が、要介護1以上等の要件に該当する世帯に対し、平成28年4月から「大型ごみ持出しサポート収集」を開始。(特別交付税措置あり)令和3年度から「大型ごみ持出しサポート収集」の対象要件を緩和して、「要支援1以上及び75歳以上」の要件についても対象とする。

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム(活動効果)					アウトプット(活動結果)	家庭系一般廃棄物(ふん尿を除く)を迅速かつ適正に収集する。				インプット(活動)	各種ごみ効率よく収集できるよう、収集方式を定める。			

指標設定	指標説明	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
	指標種類	単位				単位				単位			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)					258	258	258	258	3	3	3	3
	実績					258	258			3	3		
	達成度					100%				100%			
分析					安定的な収集業務を実施できたと考える。				効率的・効果的な収集業務を実施できたと考える。				

ロジックモデル②	アウトカム(活動効果)					アウトプット(活動結果)	大型ごみ持出しサポート収集の利用者数が増加することで、高齢者や要介護者等が自立的な日常生活を維持できる。				インプット(活動)	大型ごみ持出しサポート収集の利用希望者が増加する。			

指標設定②	指標説明	アウトカム(活動効果)				アウトプット(活動結果)				インプット(活動)			
	指標種類	単位				単位				単位			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
	目標(見込み)					40	200	250	300	40	400	400	400
	実績					18	157			57	38		
	達成度					79%				10%			
分析					要件緩和により前年度と比べて利用件数は増えたが、市民への認知度が低かったため、利用件数が伸び悩んだ。				主な相談内容は、粗大ごみの収集依頼など要件の対象外に関するものが多かった。				

アウトカム (活動効果)		アウトプット (活動結果)				インプット (活動)			
ロジックモデル③		大型ごみ持出しサポート収集の利用希望者が増加する。				大型ごみ持出しサポート収集の対象要件の緩和を行う。			
指標説明		大型ごみ持出しサポート収集の相談件数				対象要件緩和の周知			
指標種類		単位		単位		単位		回	
指標設定③		増加することが良いとされる指標				増加することが良いとされる指標			
目標 (見込 実績)		R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
達成度		10%				33%			
分析		主な相談内容は、要件の対象外に関するものが多かったため、今後、当該制度を広く周知する必要がある。				ホームページにて周知を行ってきたが、インターネットとは別の方法として自治会等にチラシを配布するなど、高齢者の目に留まる周知が必要がある。			

3. 人員体制 (人)

	R3
正職員(再任用)	54.82
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	4.70
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「正職員、再任用、任期付」の人員費については、人員配置をもとに平均人員費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人員費 会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人員費」「臨時職員人員費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人員費に充当されるものも含まれています。
 (千円)

4. 決算額

		R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	正職員、再任用、任期付	-	-	419,026		
	会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	-	-	15,991		
	特別職非常勤	-	-	0		
	附属機関委員	-	-	0		
	人件費計	-	-	435,017		
	物件費計	-	-	407	420	97%
	歳出計	-	-	435,424		
歳入	国庫支出金	-	-	0	0	
	府支出金	-	-	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	-	-	0	0	
	市債	-	-	0	0	
	その他	-	-	0	0	
	歳入計	-	-	0	0	
一般財源		-	-	407	420	

5. 総括的分析

総括的分析
 ・家庭系一般廃棄物収集全般に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったものの、2人乗務やペア収集の運行体制を確立したことで、サービス水準を低下させることなく運用することができた。
 ・大型ごみ持出しサポート収集については、要件緩和により利用件数が大幅に増加したが、市民の認知度に関してはスマホアンケートの結果からも高いものと言えず、広く周知していく必要がある。

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> 収集体制が縮小される中、効率的・効果的なごみ収集業務体制構築に加えて、スピード感のある実効的な収集体制を構築を目指す。 市民サービスの拡充については、校区コミュニティ等に協力を仰ぐとともに「大型ごみ持出しサポート収集」事業の周知・拡大に努める。

事務事業実績測定調査

事務事業名称	家庭ごみ業務第1課運営事務										
測定年度	2021 (R3) 年度			部	環境部			課	家庭ごみ業務第1課		
市長公約との関係	所信表明		市政運営方針	R2	R3		R4				
総合計画体系	基本目標		9. 施策体系外								
	施策目標		99. 施策体系外								
	実行計画名										
1. 事務事業の概要											
種類	内部管理			特性	庶務的事務			区分	庶務的内部管理事務		
事業期間	不明			年度	~				年度まで		
根拠法令等	決裁										
関係補助金名称							サンセット				
関係附属機関名称											
事業対象	メインターゲット		事務を行うごみ家庭ごみ業務第1課職員								
	サブターゲット										
	ターゲットが抱える課題										
	ターゲットが抱える課題										
めざす姿、あるべき姿 (課題が解決した状態)											
事業概要	・事務の効率的な業務運営が行えるよう執行体制の維持を図る。										

2. ロジックモデル及び指標設定

ロジックモデル	アウトカム (活動効果)				アウトプット (活動結果)				インプット (活動)				
指標設定	指標説明												
	指標種類	単位				単位				単位			
	指標数値	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5	R2	R3	R4	R5
		目標 (見込み)											
	実績												
	達成度												
分析													

3. 人員体制 (人)	
	R3
正職員(再任用)	1.00
任期付職員	0.00
会計年度任用職員	0.00
特別職非常勤	0.00
附属機関委員	0.00

※「止職員、再任用、任期付」の人件費については、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
 ※R2年度から会計年度任用職員制度が創設されたこと等に伴い、R1年度の「人件費 会計年度任用職員」欄については、過去の調書の「非常勤職員人件費」「臨時職員人件費」の合計を転記しています。
 ※「歳入計」欄および「一般財源」欄には物件費に充当されるものを記載していますが、R1年度は人件費に充当されるものも含まれています。
 (千円)

4. 決算額

		R1決算額	R2決算額	R3決算額	(参考)R3予算額	(参考)予算執行率
歳出	人件費					
	正職員、再任用、任期付	-	-	7,857		
	会計年度任用職員(時間外、交通費等含む)	-	-	0		
	特別職非常勤	-	-	0		
	附属機関委員	-	-	0		
	人件費計	-	-	7,857		
	物件費計	-	-	0	0	-
	歳出計	-	-	7,857		
歳入	国庫支出金	-	-	0	0	
	府支出金	-	-	0	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	-	-	0	0	
	市債	-	-	0	0	
	その他	-	-	0	0	
	歳入計	-	-	0	0	
	一般財源	-	-	0	0	

5. 総括的分析

総括的分析	・家庭系一般廃棄物収集全般として、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響があったものの、2人乗務の運営などにより、サービス水準を低下することなく運用することができた。
-------	---

6. 今後の方向性

区分	現状維持
今後の取組方針	収集体制が縮小される中、効率的・効果的なごみ収集業務体制構築に加えて、スピード感のある実効的な収集体制を構築を目指す。